

《担当者名》教授 / 小島 弘幸 教授 / 浜上 尚也 准教授 / 小林 大祐

【概要】

食品機能と栄養素に関する講義を通して、疾病予防における食品の重要性を理解する。

- ・脂溶性ビタミンおよび水溶性ビタミンに関する最近の研究成果を理解し、栄養素また医薬品としてのビタミンの有用性に関する基礎的知識を学ぶ。
- ・健康科学分野の観点から、疾病の予防と健康の維持・増進に繋がるビタミンの安全性と栄養の関係について基礎的知識を修得する。

【学修目標】

- ・衛生化学、食品衛生的知識ばかりでなく、健康や疾病と食品とのかかわりの観点から総合的に考察し、概要を説明できる。
- ・健康と環境を予防薬学の観点から考察し、健康の維持・増進および疾病の予測・評価・判断に必要な理論を理解し、実践できる。
- ・学習した内容を簡潔にレポートとしてまとめることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	食物摂取の意義 食品の機能	・食物摂取による生体影響を栄養学的に概説できる。 ・食品の一次～三次機能について概説し、対応する主な食品成分の機能を概説できる。	浜上 尚也 小林 大祐
3) 4	食品の機能性成分	・三次機能を有する食品成分で、科学的根拠に基づく有効性が確認されている代表的なものを列挙し、概説できる。	浜上 尚也 小林 大祐
5) 6	栄養素の過不足による疾病	・栄養素の過不足と疾病の関係について、例をあげて説明できる。	浜上 尚也 小林 大祐
7) 8	食事摂取基準	・日本における栄養摂取の現状と問題点を説明できる。	浜上 尚也 小林 大祐
9) 10	栄養疫学	・栄養疫学研究の手法を理解し、疾病予防に関する栄養素の重要性を説明できる。	小島 弘幸
11) 12	生活習慣病のエビジェネティクス	・栄養・環境因子がエピゲノムに影響を与える仕組みを理解し、生活習慣病との関係を概説できる。	小島 弘幸
13) 14	臨床栄養学	・疾病の病態・栄養状態を把握し、食事療法・栄養補給法による栄養管理、薬との相互作用を概説できる。	小島 弘幸
15	総括	・予防薬学の担い手として地域の保健に貢献できる健康維持・増進の方策を構築できる。	小島 弘幸

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

関連分野の学術論文を1編を参考として作成された課題レポートを評価（100％）する。

【教科書】

なし

【参考書】

必要に応じてレジユメを配布

【学修の準備】

関連分野の基礎的知識を確認し、最新の論文の内容を理解できるよう準備する。